札幌国際大学　招へい教員 教育研究活動実績報告書

氏　　名	王　樹義
国　　籍	中国
招へい期間（教育研究期間）	2019 年 4 月 1 日から 2020 年 9 月 30 日まで
派遣機関	保定学院
本学の所属・職位	観光学部国際観光学科・准教授

教育研究実績

一、教育活動

（一）担当科目

1. **2019 年度前期担当クラス＆科目：**

   ①日本語初級クラス／文法　　②科目等履修生／語彙＆文法　　③中国語Ⅰ

2. **2019 年度後期担当科目：**①科目等履修生／語彙＆文法　　②中国語Ⅱ

3. **2020 年度前期担当科目：**

   ①科目等履修生／読解　　②科目等履修生／文法　　③中国語Ⅱ

（ニ）担当状況について

１．授業の分担方式や進め方などは中国国内にいた時とは違っているところがあるため、最初は慣れるのに少し時間がかかった。また、全学的に実施する授業参観活動のおかげで、他の先生の授業のやり方も見学できた。中国の大学と授業の推進方法等において、いろいろ違いがあるが、ヒントを得ることができ、いい勉強になった。また、クラスの学生がそれぞれ違う国から来たにも関わらず、お互いに意欲的に日本語で楽しくコミュニケーションしている様子を見て教師として大変感動した。「国際的」な雰囲気を身をもって感じたのである。

２．中国語授業においてはいろいろな試みを行った。中国語が一定程度できる日本人の家庭教師を担当したことがあるが、会話の相手役をしたぐらいで、ピンインから文法文型を一々教えることは未曾有の経験であった。３期に渡る中国語の授業を担当することにより、だんだん要領を得るようになってきた。特に 2020 年前期の中国語の授業においては遠隔授業で実施したため、疲れやすいなどのデメリットがあったにもかかわらず、学生が一生懸命付いてきてくれて、学生たちにも心から感謝したい。

ニ、研究活動

1. **2016 年度河北省社会科学基金研究課題「河北省大学における『日本語＋』応用型人材の育成に関する研究」。**

　研究担当者として招聘期間において今まで中国国内で集めた資料を整理したうえで、著書の作成に着手した。まだ最後まで完成していないが、文献や資料が大体揃ったので、年内に終わらせる予定である。

著書の要旨：河北省四年制大学における日本語人材育成の実情を調査したうえで、応用型日本語人材の育成における問題点を分析し、河北省以外の大学の応用型日本語人材の育成に関する理論や経験を生かして河北省四年制大学における「日本語＋」応用型日本語人材の育成の在り方について主張し、具体的な方策の提案を試みたい。

2. **2019 年度河北省社会科学基金研究課題「当代日本幼児教育改革の動向及び示唆」。**

　課題研究グループのメンバーとして 2019 年 10 月からインターネットや大学の図書館を利用して、分担内容の関係資料を調べ、研究成果として論文「幼少接続の視点から見る日本 2017 年版『幼稚園指導要領』のアピールポイントについて」を書き終わり、2020 年 10 月に中国国内の学術雑誌に掲載される予定である。

論文の要旨：2017 年に告示した『幼稚園指導要領』の変化を踏まえたうえで、幼少接続の視点からこの度の『幼稚園指導要領』改訂のアピールすべきポイントに着目し、その意義と学ぶべきところについて論ずる。

3. **2019 年度国家社会科学基金研究課題「戦後日本職業教育史」。**

　課題研究グループのメンバーとして 2020 年 1 月から大学の図書館蔵書や購入した資料を利用して関係資料や文献の選別・収集を進めてきたが、これからの資料の収集状況を踏まえながら具体的な研究テーマを絞って論文を書く予定である。

札幌国際大学　招へい教員 教育研究活動実績報告書

氏　　名	王蕾
国　　籍	中国
招へい期間（教育研究期間）	2019 年 9 月～2020 年 9 月
派遣機関	桂林旅游学院
本学の所属・職位	観光学部国際観光学科・講師

教育研究実績

教育研究について以下の三つの方面からまとめていきたいと思う。：

１．一番大変なのは中国語の授業だった。中国人だから、中国語を教えることができるというわけじゃない。自分はもう一度中国語のピンインから勉強しながら、学生の目的に合わせて、発音も文法もあまり厳しく要求せずに、日常会話ができるように話すことを重点に授業を進めていった。

２．授業参観：授業参観のおかげで、今発生していることから日本という国の制度、日本の人口問題、コロナ後北海道観光産業の振興等々、日本についてたくさんのことを勉強した。ゼミという授業のやり方も新鮮だった。学生の学習意欲を引き出すのにすごくいいと思う。帰国してから、私の授業にも取り入れてみようと思う。

３．日本で研究した内容：

2020 年 1 月末、大学の教育研究費で大阪、京都、神戸へ研究調査を行った。

行く前に一番憧れていたのは京都だった。静かな古い都をイメージしていたが、実際は全然違っていた。どこへ行っても人、人、人（観光者）で、がっかりした。

京都から帰ってきて、冬休みの間よく図書館を利用した。観光産業は《新観光立国》という本に書いてあるように所得の向上や雇用の創出、交流人口の増加や国際理解の促進といったメリットがある一方、《観光亡国論》《パンクした京都》《間違いだらけの日本のインバウンド》という本に貴重な自然環境や住民生活が損なわれる、観光以外の産業の衰退などのデメリットがあると書いてある。読書をし、はじめて「オーバーツーリズム」という言葉を知り、そして、京都は日本のオーバーツーリズムの典型だということも分かった。

そのうち高坂晶子著の《オーバーツーリズム》は世界各国の事例紹介にとどまらず、各地のオーバーツーリズムへの対処方法についても明示している。

オーバーツーリズム現象の具体例

問題の例	具体的内容・影響
観光資源関連	
自然・景観の毀損	環境汚染、植生・生態系の変容・破壊
建物・遺跡等の破損	落書き、破損、周辺地域の開発による景観・雰囲気の毀損
地域社会関連	
渋滞	公共交通が利用しつらくなるなど利便性の低下、経済活動を阻害

混雑	生活環境・販売活動等への悪影響、観光地としての評判の毀損
ごみ	処理費用の増加、処分地拡大の必要性
騒音	健康被害、生活環境への悪影響、観光地としての評判を毀損
悪臭	同上
住民生活関連	
治安の悪化	ギャンブル、麻薬、観光客の不品行等の横行
コミュニティの衰退	賃貸住宅をホテル・飲食店へ転用、住民の転居・追い出し
日常生活への被害	庭への立ち入り、プライバシー侵害
経済関連	
観光以外の産業の衰退	経済構造が脆弱化
物価の高騰	家賃の高騰も含む
経済活動への妨害	農漁業被害、商店のターゲットが住民から観光客向けにシフト
伝統・文化関連	
文化・習俗の変容	商業公演・展示等による伝統・季節性の喪失・形骸化
生活習慣の変容	生活の西洋化のよる健康被害
ホスピタリティの低下	住民感情の悪化、排斥行為（デモ、落書き、観光バス襲撃等）

表 1　オーバーツーリズム現象の具体例（出展：地域事例に関する新聞報道等に基づき筆者高坂晶子作成）

オーバーツーリズム対応の手法

対策		具体的内容	実施例	問題点・留意点
分散	季節的	訪問困難な施設・ 文物をオフシーズン 限定で公開	非公開社寺、 美術品、庭園等 の特別公開	分散困難な事情 （桜の見ごろ、雨季）
	空間的	主要観光資源以外を 訴求、特典の付与 二次交通の提供	エベレスト以外 の登山解禁	オーバーツーリズム現象 の拡散
	時間的	早朝・夜間のイベント 開催、特典の付与	朝茶事、ナイト ツアー、ライト アップ	住民生活へのダメージ 夜間運航等のコスト増
課金	高額 入場料	祭り・イベント等参加料 、観光ビザ発給 手数料、高級ホテル 限定の建設許可	ブータンの入 国時デポジッ ト	料金に見合ったサービス の提供 一般参加が困難 →締め出し批判
	税金	拝観料 混雑税	京都の古都保 存協力税 ニューヨーク の渋滞税	一律徴収のため影響が広 範囲 観光地としての評判を毀 損
規制	行動規制	公認ガイド付きツアーに 限定	寺院見学や旧 市街ツアー	ガイド資格の明確化、 公認作業

		入域前の消毒、シャワー等の義務付け 事前レクチャーの受講義務 付け	ガラパゴス諸島 小笠原諸島	ガイドの資質の管理、 予約等事務負担 入域管理、ゲート、柵の設営
	立ち入り規制	中心市街地への立ち入り禁止	ベニス 正月の鎌倉	観光客の立ち入り禁止区域の線引き 住民への交通証の発行事務
	入場制限	著名観光資源への立ち入り 上限規制 事前予約制 （身元確認つき）	アルハンブラ宮殿（スペイン・グラナダ） システィーナ礼拝堂（イタリア・バチカン）	予約事務・身元確認作業の負担 観光地としての評判を毀損
	交通制限	パーク&ライド、通行規制・禁止 市内駐車場の廃止	ツェルマット（スイス） オスロ（ノルウェー）	最終アクセス手段の確保 一般住民の利便性を侵害

表２　オーバーツーリズム対応の手法（出典：新聞、ウェブ情報に基づき筆者高坂晶子作成）

そして、本の最後に新たなオーバーツーリズムとその対策についても書いてある。

新たなオーバーツーリズムとは情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）の進歩、SNS の普及や情報共有が旅の一環となることなどのため、観光客の嗜好・行動の変化が影響し、無名のスポットが突然ブレークし、コミュニティや地域住民とトラブルになることだ。次世代オーバーツーリズムとも言う。アニメ大国日本の独特な観光形式「聖地（神奈川県鎌倉市）巡礼」もその具体例の１つだ。

４、帰国後にまとめる研究論文：

実は、私の住んでいる町桂林もオーバーツーリズム現象が発生している。昔から、「桂林山水は天下に甲たり」といわれていて、中国でも一番最初に開発された観光地だ。多くの観光客が訪れることによって、道路が渋滞、町が混雑してきて、物価高騰になった。大変なのは観光依存度が高まることで地域経済の脆弱性が増すことだ。それで、SARS のときは、手痛いダメージを受けた。

桂林は北海道と同じぐらいの人口 540 万人を有し、観光資源も豊かだが、オーバーツーリズムで地域住民が観光客に来てほしくないようだ。どうすれば観光客とコミュニティ及び地域住民の WIN-WIN の関係をつくることができるのかという内容の研究論文をまとめたいと思う。

一年間、短い期間だったが、「百聞は一見に如かず」、札幌国際大学が招へいしてくれたおかげで、関西調査もできたうえで、日本という国についても前よりわかるようになった。

振り返ってみれば、去る一年は豊作の一年だった。

札幌国際大学　招へい教員 教育研究活動実績報告書

氏　　名	顔　欒蘭
国　　籍	中国
招へい期間（教育研究期間）	2019 年 4 月 1 日から 2020 年 9 月 30 日まで
派遣機関	（中国遼寧）遼寧石油化工大学
本学の所属・職位	観光学部国際観光学科・講師

教育研究実績

教育経歴：

招聘期間において、担当の科目は、日本語読解、聴解、文法、語彙、中国語Ⅰ、Ⅱなどがあり、教育対象は、留学生（中国、ベトナム、韓国、マレーシアなど）と日本人学生など、多文化背景を持つ学習者である。授業で実践を通して、勉強になったことを研究に応用し、日本語教育分野についての理解を深められた。

研究業績：

日本語教育分野において、ピア・ラーニングの教育効果に着目し、同大学の人文学部教授伊藤 寛 先生、観光学部准教授の金庭 香理 先生と一緒に、実践の基づき、論文を共編し、今年度 3 月に大学紀要に投稿した。

タイトル：　ピア活動の導入は学習者の聴解過程に何をもたらすか
－中国人学生に対するリスニング授業における試案として－

要旨：

本稿は、中国人学生の聴解授業に「ピア・リスニング」の方法を導入した場合、ピア活動において、学習者はどのような談話行動をとるか、また、学習者のピア活動が聴解活動にどのように影響するかを明らかにすることを目的としたものである。

本研究では、「ピア・リスニング」において、その授業の過程で学習者が記述した「内省」を、「ピア活動」における談話行動を元に分析・考察をした。その結果、学習者の談話行動には、相互の意味交渉が見られ、それによって内容理解が行われていることが確認された。

また「ピア・リスニング」には、学習者自身の学習ストラテジーに関する気づきやピアとの信頼関係の構築などの意識も確認された。

以上の点からも、「ピア・リスニング」の方法を聴解授業に取り入れた場合、認知面および情意面の両面において、学習者の談話に見られる意味交渉や「調整行動」は、学習者相互の聴解活動に効果的であるという結論を得た。